令和４年度　県立竹園高等学校自己評価表

目指す学校像	個性と創造性の伸長を図り、社会の要請に応え得る広い視野と、磨かれた知性・たくましい体力・気力を合わせ持つ人材の育成を図るため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。 ○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに調和のとれた課題解決を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成を図る学校。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
昨年度は休業期間においても、オンラインによるリモート授業を行うなど「授業第一」をモットーに生徒が主体的に学習に取り組む指導を行った。現役国公立大学合格者数は 169 名であり、難関 10 大学や医学部医学科の合格者数が増加した。生徒会や実行委員会により、学校行事の企画運営は生徒主体で行っている。部活動の加入率も高い。 本年度は、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業や教科横断型の知識を構築する指導法のさらに充実や、ICTをさらに活用する授業運営を進める。	1　進路指導の充実	①　生徒の進路希望実現に向けて、大学入学者選抜改革にも対応した組織的な支援を行う。 ②　「キャリア・パスポート」を活用し、将来についての考察を深めさせる。	B
	2　学習指導の充実	③　ICT を活用し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたさらなる授業改善、指導法研究を行う。 ④　予習・授業・復習のサイクルにおける自分の学習法を確立し、十分な時間を確保させる。	A
	3　豊かな心の育成	⑤　自律的な生活態度、規範意識を向上させ、効果的な学習・進路指導に繋げる。 ⑥　「道徳」、「道徳プラス」を活用し、人権感覚を身に付ける。 ⑦　特別活動への積極的な参加を促し、知徳体のバランスのとれた人間性を育む。	B
	4「グローバルリーダー」育成事業の推進	⑧　SDGs未来都市つくばの国際性豊かな環境を生かした教育活動を行う。 ⑨　県指定である「県立高等学校等チャレンジ・プロジェクト」(重点校)の活動を通して、将来国際社会で活躍できるグローバルリーダーの育成を図る。 ⑩　新学習指導要領に則した「探Q」活動を見直し、課題解決の方法を身につける。 ⑪　新学習指導要領の趣旨に沿った本校独自の英語プログラムの開発を行う。	A
	5　情報発信の充実	⑫　学校HP、スクールガイドの内容を向上させ、情報発信を充実させる。 ⑬　学校説明会や授業体験会をさらに充実し、本校の魅力を正しく伝える。 ⑭　地域、近隣の小・中学校、PTA、同窓会との連携を密にする。	B
	6　働き方改革の推進	⑮　校務処理の効率化や ICT の利活用による教材の共有とその協議を推進する。 ⑯　部活動の統廃合や休日の活動の仕方を検討し教員のゆとりを生み出す。	B

三つの方針		具体的目標
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	・多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図れる資質能力の育成 ・複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成 ・自国の文化歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	・県内の学習指導、進学指導を牽引するリーダー校として、学力向上の推進、難関大学及び医学部志望者への進路実現 ・国際科においては特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のバランスが取れた育成を図る
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・様々な分野に対して興味を持ち、探究心旺盛で、積極性・主体性に富む意欲のある生徒 ・国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語及び異文化理解に努める生徒 ・自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎知識の充実を図る。	ICT を活用し、反復練習をすることで、基礎知識の定着を図る。 ③④⑮	B	B	・主体的・対話的な授業展開の工夫と、新たな入試に求められる思考力の育成を目指す。
			小テストを実施し、基礎知識の定着と予習復習の習慣を身に付けさせる。 ③④⑧	A		
			基礎学力が不十分な生徒に対して個別に働きかけ、学習面談を実施する等して学習意欲を喚起する。 ①⑧	B		
		発展的学力の向上を図る。	国語を適切に表現し的確に理解する能力を身に付けさせるとともに、論理的思考力及び表現力を伸ばすために、授業に話し合い活動や要約文を書く等を取り入れ、また国語科の教員間で検証する。 ①③	B	B	
			問題集を精選し、その取り組みを促すことで、自学自習の態度を身に付けさせるとともに、確かな学力の向上を図る。 ③④	A		
			難関大学入試問題に対応できる国語力育成のために、論述問題や小論文指導の充実を図る。 ④⑤	B		
	地歴公民	指導方法の工夫改善に努め、授業を軸とした基礎学力の定着を図る。	学習指導計画に基づき授業を実施し、授業を軸とした学習サイクルを確立することで、基礎学力の定着を図る。 ①③	A	A	・授業内における主体的・対話的な授業実践の共有。ICTを活用した授業展開により生徒の能動的な学びを促せているかの検証。
			教科内で授業研修を行い、生徒の能動的な学びを促す授業づくりができているか検証を行う。 ②	B		
		教科間で連携し、発展的学力の向上に努める。	歴史的・地理的・公民的視野に立った思考力を育成するため、授業における主体的・対話的で、深い学びの取り組みや論述問題を取り入れた考査等を実践する。 ②	A	B	
			教科間で連携をとり、大学入試に対応できる発展的学力の育成を目指す。 ⑤	B		
	数学	授業の内容の充実を図り、思考力の育成に努める。	教科担当者で教材を共有し、授業の進め方や内容の情報交換を密にして授業の改善を図る。 ①⑮	A	A	・新課程入試における共通テストへの対応。特に数学ⅡBC。 ・課題の取り組み方と大学入試に向けた指導の徹底。
			クロスカリキュラム、アクティブ・ラーニングを積極的に導入し主体的かつ対話的な学ぶ姿勢を作る。 ②⑤	B		
			各考査及び模擬試験により学力の定着度合いを分析して、その結果を指導に生かす。 ①⑤	A		
			関連する発展的内容を扱い、思考力と成績上位層の育成に努める。 ②⑤	A		
		学習習慣の定着を図る。	教科書傍用問題集を定期的に評価することで学習習慣の確立を促す。 ③④	A	A	
			各学年で課題（小テスト、章末テスト等）を設定することで、復習内容の高質化を図る。 ③④	A		
			長期休業中の課題を工夫し、自学自習の習慣を確立させる。 ③④	A		
		基礎学力の向上を図る。	各考査後の解き直し(弱点ノート等)を徹底させることで、深い理解を促す。 ④	A	A	
			基礎学力が不十分な生徒に対して補習を実施する。 ②⑤	A		
			教員への質問を奨励し、個々の理解度に応じた対応を心掛ける。 ②⑤	A		
	理科	基礎学力の向上及び思考力や判断力・表現力の育成を図る。	毎回の授業後の振り返りや課題、小テストの実施により、基礎学力の向上と学習習慣の定着を図る。 ①④	A	A	学習指導についてさらに主体的対話的な学びの実現をしていきたい。また、生徒の効果的な ICT 活用を考える。 探 Q については1年生でも理科に関する内容を行いたい場合は、指導助言をしていきたい。
			クロスカリキュラム、アクティブ・ラーニングなどを積極的に導入し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をさらに進めていく。 ①④	B		
			授業における発問の工夫や実験実習等の探究活動を通して、論理的思考力を育成する。また、生徒が ICT 機器を活用して実験・実習・観察などの結果をまとめて発表するなどを行うことで思考力・判断力・表現力を育成する。 ①③	B		
			ICT 機器を活用することにより、教科の指導法や教材の開発・工夫に努める。また、教材研究の効率化を図り、 授業の質を高める。 ③⑮	A		
		SSHの継承と発展を図り、課題探究学習の充実を図る。	国際科2年の探Qにおいて生徒の関心に沿った適切なテーマを設定し、より深い探究活動ができるよう探 Q 指導員と協力しながら指導を行う。 ⑩	A	A	
			実験・実習・観察などの場面において、実験方法を生徒自身が考えるなど、生徒が探究的に学べるように工夫を行う。 ①③	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	保健体育	授業の充実を図る。	体育：生徒が主体的に活動する授業の実現とともに、個人技能の段階的な向上を目指し、各生徒へ適切なアドバイスを行えるようにする。また生涯スポーツの基盤づくりとして体力の維持増進を意識させ、仲間との交流を通じ各運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう努める。 ①②	A	A	・3年間を通した授業カリキュラムを生徒の実態を含めたより良いものにしていくこと。 ・ICT を活用した授業展開、をさらに推進していきたい。
			保健：各単元の理解を深められるよう、視聴覚教材や実習を活用し指導方法を工夫する。2 年生では「道徳プラス」を活用し、環境問題について深く考えられるようにする。 ②⑥	B		
		体育授業における事故防止に努める。	準備運動の徹底、道具の管理や使用方法などについて注意を促す。体調不良や怪我が起こった場合には、養護教諭と連携し迅速かつ適切な処置を行う。 ④	A	A	
			コロナウイルス感染予防のために、マスク着用、換気や消毒などを徹底する。状況に応じて授業で取り扱う種目を検討する。⑧	A		
			体育施設の修繕、用器具の充実を図り、体育授業の活性化と安全性の向上に努める。 ②	A	A	
	芸術	授業内容の充実を図る。	幅広い芸術活動を紹介し、様々な表現方法に触れ、個々の感性に応じて芸術のよさや美しさを味わえるようにする。 ①⑤⑧⑮	B	A	能動的な鑑賞をするために，機材や教材の更新をする。 ・双方向授業の実践に向けて研究を進める。
			我が国及び諸外国の歴史や文化的背景などとの関わり及び多様性を学び、それぞれの芸術文化についての理解を深め、多様な価値観を認め合う資質や能力を育成する。 ①⑤⑧⑮	A		
			多岐にわたる領域の中から生徒の興味関心をアンケート等でリサーチして、充実感の高い内容を検討する。 ③⑤	A		
		基本的な知識や技能を身につけ、表現の能力を伸ばす。	生徒個人の表現能力や進捗状況を的確に把握できるように観察し、適宜個別指導を丁寧に行う。 ⑤	A	A	
			できる限り様々な表現方法を紹介し、各自表現したい内容を確認して表現方法を決める。 ⑤	A		
			教材に相応しい技能を身につけ、イメージを持って表現を創意工夫する。 ①⑤	A		
	外国語	基礎学力の定着	定期的に学年や科目を超えて意見交換をし、資料の共有や授業の改善につなげる。③	A	A	・観点別評価の改善 ・パフォーマンス評価の充実 ・外部検定試験対策の指導方法の検討 ・試験実施時期等の検討
			予習・授業・復習のサイクルが確立されるよう、取り組み方及びふりかえりの指導を行う。④	A		
		思考力・表現力の向上	ACE プログラムの見直し及び改良を図る。⑨⑪	A	A	
			各授業で、生徒が主体的に参加するペアワーク、グループワークを実施する。③	A		
		外部検定試験・大学入試対策の充実	学年を超えて全体指導及び個別指導を計画的に実施する。①	B	B	
			模擬試験の分析会を実施する。①	B		
	家庭	授業内容の充実を図る。	主体的に生きる力を身につけられるような実習やクロスカリキュラムの授業を導入する。 ③	B	A	・クロスカリキュラムについてどの分野でどの科目と行えるか更に検討する。 ・ICTを利用した発表方法について研修する。
			グループでの実験や実習等を可能な限り取り入れ、他者との対話を通して協働できるよう授業展開や教材開発に努める。 ③	A		
		一人の生活者として必要な基本的な知識・技術力の向上を図る	自らの家庭生活の充実向上を図る実践的態度を養うため、衣製作実習や実験など体験学習を多く取り入れる。 ⑤	A	B	
			ICT を活用した、ホームプロジェクトの実践と発表・相互評価を通して、主体的に生活課題を解決する力を養う。 ⑩	B		
	情報	基本的な情報技術と情報を扱う方法の習得	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集・処理・表現する基礎的な知識・技能の習得・定着を図る。	B	B	・情報機器や通信技術への理解の促進。 ・主体的な学習を引き出す活動の充実。
			情報化に主体的に対応できる能力、及び情報社会に積極的に参画する態度を育成する。	A		
		情報モラルを身に付ける	情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報セキュリティや個人の責任など情報モラルについて主体的に判断できる態度・資質を養成する。	A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	生徒の能動的学習意欲を喚起する。	年間計画（シラバス）を提示し、生徒の計画的・主体的学習に役立て、出張・年休等による授業変更を円滑に行い、授業時間の確保に努める。 ①③④	B	B	・授業変更方法の改良を重ね、最善の方法を確立していく。 ・校内ICT研修の更なる充実。 ・観点別学習評価の改良とシラバスの改良。 ・相互授業参観を励行する。
		観点別学習評価を明示して生徒の学習の実現状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす。 ①③④	B		
	教科の指導力向上を図る。	授業参観の機会（ちょい見週間）を設定し、指導方法の工夫・改善を図る。 ①③⑧	B	B	
	迅速かつ正確な情報発信に努める。	学校案内パンフレット等を一新し、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。 ⑫	A	A	
		学校説明会や授業公開等を通してPR活動を積極的に行い、本校の特色を正しく伝えるとともに、参加者の増加に努める。 ⑬	A		
	ICT を活用して、竹園高校の活性化に努める。	ICTを活用した授業展開・HR活動等の推進を図る。 ③⑮	A	A	
		ホームページの充実を図り、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。 ⑫	A		
		校務支援システムの運営を円滑に進める。 ⑮	B		
	教育課程編成を円滑に遂行する。	各教科からの要望に配慮しつつ、本校の将来構想に沿った教育課程の編成に努める。 ①⑧⑮	B	B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立に努める。	学校内外での挨拶を励行させる。 ①⑤⑥	B	A	・朝の立哨指導については、継続していく。 ・挨拶の励行を徹底できるように職員間で共通した指導を心がける。
		学校内外での登校指導を行う。 ①⑥⑭	A		
		服装・頭髪について適宜指導する。 ①⑤⑥	A		
	交通ルールの指導やマナーの向上に努める。	集会やHRを通し、交通安全やマナー向上の教育を実施する。 ⑤⑥⑦	A	A	
		自転車についての指導を適宜行う。交通安全教室を実施する。 ⑤⑥	A		
		竹園地区マナーアップ推進事業に積極的に協力する。 ⑭	B		
	安全管理意識を高揚させ、事故防止に努める。	保護者や関連機関との親密な連携を保つ。 ⑭	B	A	
		近隣で起きた事件・事故の情報を速やかに全生徒に情報提供する。 ⑭	A		
		薬物乱用防止教室やケータイ・ネット安全利用の講習会を開催する。 ①⑤⑥	A		
	豊かでたくましい人間性を育てる。	集会・HR・授業など多くの場で、多様な形態で心の教育を行う。 ①⑤			
進路指導	生徒の適性をとらえ、生徒一人一人のキャリア発達を促すために、学力の把握と実力養成に努める	各学年と連携し、生徒との進路相談等を適宜行うことで、生徒の進路実現を支援する。 ①④⑤	B	B	長引くコロナウィルス感染症の影響で，大学のオープンキャンパスや大学教員を招いての学部学科紹介模擬授業も一部オンラインでの実施になるなど，生徒のキャリア形成のための機会が大幅に減少してしまった。生徒の的確な進路選択をどのように支援していくのかが課題である。
		各回の模擬試験について、学年間比較・他校間比較などの分析により、生徒の学力の把握に努める。 ①④⑤	B		
		大学教員による学部学科紹介模擬授業の実施、オープンキャンパスや一日医師体験等への参加を通して、生徒のキャリア形成を図る。 ①②⑤	B		
		県の医学部進学支援に基づき、医学部医学科進学希望者への支援を計画的に行う。 ①⑤	B		
	生徒の学習館及び進路ラウンジの利用を促進する。	朝や昼休み、放課後等の学習館の利用促進をはかり、生徒の自学自習の態度を育成する。 ①④⑤	A	B	
		進路ラウンジを整備し、多くの進路情報を提供すると同時に、赤本等の貸出を的確に行うことで生徒の学習の支援をする。 ①④⑤	B		
	適切な進路情報を教員・保護者・生徒に提供する。	進路研究会や進路情報交換会、出願検討会等を通して、進路情報を学校全体で共有し、生徒の進路実現の支援を図る。 ①⑤⑨	B	B	
		大学合格者数等進路に関する正確な統計を行うとともに、進路要覧を作成し、本校の進路状況を生徒・保護者・職員に提供する。 ①⑫⑮	B		
		外部の大学説明会や進路研究会等に参加することで、各大学の入試の変更点や新課程入試等についての情報を収集し、生徒・保護者・職員に提供するとともに、今後の課題を明らかにしていく。 ①⑫	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
保健厚生	生徒の心身の健康状況を把握して、生徒自らが健康課題を解決できるように努める。	定期健康診断を通して、生徒自身の発達や健康状態を知り、健康管理能力を高める。 ⑤	A	A	・コロナ対策長期化に伴う危機感の低下。 ・AED 講習会参加率を上げる。 ・保健室利用不可時の周知と各学年の協力。 ・ゴミの分別徹底の指導。
		保健室の利用状況等から配慮の必要な生徒の情報を学校全体で共有する。 ⑫	A		
		健康観察フォームの入力の徹底を呼びかけ、自律的な生活態度を養う。⑤	B		
	健康・安全教育を通して、生徒の心の教育を充実させる。	つくば市と連携した防災訓練実施し、防災意識の高揚や、非常時の適切な行動の必要性を学ばせる。⑭	B	B	
		AED 装置を迅速に正しく扱えるよう教員向 AED 講習会を実施する。3年に一度の受講を促す。⑭	B		
	学習環境の整備を図る。	温湿度計の設置と活用により、教室の適切な換気・温度管理や衛生管理を自らできるように促す。⑤	B	A	
		清潔な環境維持と豊かな心を育むため、整備委員の活用によるペットボトル等の回収リサイクルを促進する。⑦	A		
図書	調べ学習に役立つ図書利用の充実を図るとともに、利用しやすい図書館を目指す。	授業での図書館利用や図書の購入・廃棄に関して、各教科との連携をより一層密にし、本校の教育活動を考慮した購入、古い図書資料の除籍・更新を行う。 ①⑩	B	A	・特に理系内容の蔵書の除籍・更新を進める。探究活動に使用できる蔵書を増やす。図書委員会の活動において ICT 化をさらに進める。
		新着図書や推薦図書などの広報活動をICTを利用して行う。 ③⑦⑩	A		
		図書委員会において、カウンター当番、年5回程度の館報の発行、年3回の購入図書選定などの活動を行う。 ⑦	A		
	図書館利用におけるマナーを向上させる。	図書の無断持ち出しや延滞をしないように指導し、延滞者には年3回督促状を出す。 ⑤	A	A	
渉外	PTA活動の円滑な運営を図る。	本部役員会や各種専門委員会の積極的な活動を支援する。 ⑭⑮	A	A	・コロナ禍において、最大限の活動ができた。 ・各地区の支部会等にも多くの教員が参加できた。
		支部活動が充実したものとなるよう支援する。 ⑭⑮	A		
	生徒・保護者の視野を広めるための活動に取り組む。	「進路セミナー」「家庭教育講座」が有意義に実施されるようセミナー委員会と協力し、企画・運営する。⑭⑮	A	A	
		PTA広報紙「樟の木」を広報委員会と協力して発行し、広報紙を通じてPTAや生徒の活動が会員の間でより身近になるようにする。 ⑫⑭⑮	A		
	PTAの主体的な活動への協力を行う。	支部会の活動に多くの教職員が積極的に関わり、保護者と率直な意見交換を行い生徒の教育活動に生かせるようにする。⑭	A	A	
教育相談	教育相談の広報活動と教員の理解向上を推進する。	「相談部だより」の定期発行（11 回）を行う。 ①⑤	A	A	・さらに各学年との連携と円滑な情報共有をすすめる。
		生徒理解のための研修会を実施する。 ⑤	A		
	組織的・計画的な教育相談を実施する。	各学年・他分掌との連携し、必要に応じて、ソーシャルワーカー派遣制度を活用する。 ⑤	A	A	
		スクールカウンセラーとの連絡を密にし、カウンセリングが円滑に実施できるよう調整する。 ⑤	A		
		生徒の支援のため、ケース会議を実施し、情報共有し、組織的な支援体制を推進する。 ①⑤⑦	B		
特別活動	豊かな人間性を養うため,生徒会や委員会、部活動などの教科外活動を充実させる。	学校行事のあり方を研究し各学年・各校務分掌と連携して取り組む。竹高生であることの誇りと自覚を持って学校行事に取り組む姿勢を養い自走する生徒を育成する。①⑦	B	A	ウィズコロナの考えに立ち、今年度の実績も踏まえて実施可能なを最大限できるよう検討しながら活動を進めていきたい。
		部活動や委員会への積極的な参加を促し、活動を通して個性の伸長と豊かな人間性を育てる。⑦	A		
	県立高等学校チャレンジ・プロジェクトの活動を充実させる。	県立高等学校チャレンジ・プロジェクト等の積極的な参加と活動の充実を支援し、活動を通してグローバルリーダーの育成を図る。③⑤	B	B	
	ホームルーム活動を充実させキャリア教育の推進を図る。	各学年とも連携しホームルーム活動を通して社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる。⑤	B	B	
		教務部や進路指導部と連携しキャリアパスポートの準備を進める。⑤⑦	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
探究国際	課題解決のスキル獲得のための企画立案・運営を行う。	国際科・各教科・各学年・各分掌や、他の機関（学校・研究所等）との連携・協力のもと、県の「チャレンジ・プロジェクト」事業を活用して「自走する生徒」育成のための企画立案・運営を行う。①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	B	A	・探Ｑ活動と教科との連携を深め、学校全体としての探究活動を充実させる。 ・学年とのより密な連携を図り、道徳を含む探Ｑの円滑な実施を促す。 ・探Ｑへの外部による評価を導入する。 ・探Ｑ発表会までの行程の見直し。
	自ら問いを立て、課題解決のための資質・能力の育成を図る。	学年との連携により、「探Q基礎」の中で協働の喜びを感得させる。③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑮	B	A	
		外部や学年と連携し、NOLTY 探究プログラム手帳を用いて探Q基礎の運営およびプログラムを確立する。①③⑧⑨⑩⑮	A		
		国際科と連携し、NOLTY 探究プログラム手帳を活用して探Q（課題研究）の指導方法を開発する。⑥⑦⑧⑨⑩⑭⑮	A		
		2学年と連携し、NOLTY 探究プログラム手帳を活用して普通科探Qの内容の充実に努める。①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑮	A		
		探Q発表会の内容の充実に努め、探Q活動を学校全体の取り組みとして確立させる。①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩	A		
	グローバルな視野を持ち行動できる人材育成	次年度に実施するスタディツアーの業者選定を1学年と保護者と連携し、円滑に行う。⑬⑭	A	A	
		活動を通して諸外国の課題を自分事として捉え、課題解決のため行動できる人材を育成する。②③⑧⑨⑩	A		
	社会と自己の関わりを考えるため学校間交流等を実施する。	探究を深めるため、4 校合同探究交流会への参加生徒を昨年度より増やす。②③⑤⑧⑨⑩	A	A	
		SDGs活動で地域の小中学校との交流や防災研究所と連携する。⑬⑭⑮	A		
		探Ｑ活動での筑波大学院生の指導員などを通して筑波大学との充実を図る。③⑧⑩⑮	A		
		探Ｑ活動での東京大学宇野ゼミとの連携を通して充実を図る。③⑧⑩⑮	A		
国際科	適切な学科選択を支援する。	第１学年と連携し、適切な学科選択を支援する。①	A	A	・国際科オリエンテーション内容の検討 ・国際交流プログラムの充実
		説明会やガイダンスを通して国際科の特色に対する理解を深めさせる。①	B		
	国際理解教育を推進する。	ホームページ・学校説明会・探Ｑ活動報告書等をとおして情報提供を行う。⑫⑬	B	B	
		探究国際部・学年・教科と連携し、留学や国際交流プログラム等を推進する。⑧⑨	B		
第1学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	普段の生活における生徒への声かけにより、服装・身だしなみ・挨拶・言葉遣い等、社会規範と個性の調和のとれた行動を促す。 ⑤	B	B	・継続して服装・挨拶・遅刻・欠席指導は徹底して行っていく。 ・家庭学習習慣の定着とともにそれぞれのコース選択に応じた個々における助言が必要だということを意識する。 ・小テスト等の小目標を随時達成することで，基礎学力の定着を図り，且つできるだけ早期に具体的な大目標を設定させ,主体的に努力させてく。
		朝の立哨や個人面談を通し、欠席、遅刻への指導を徹底し、規則正しい生活を促す。 ⑤	A		
		各種学校行事および道徳やHR活動を通して、クラスの団結を促し、相手を尊重する心や協力しあう姿勢を育むとともに、規範意識を高める。 ⑥⑦⑧	B		
	授業を軸とした学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	予習復習の励行と授業の重要性を意識させるとともに、家庭学習時間平日3時間・休日5時間の定着を、手帳に記録する習慣をつけさせる指導により実現する。 ①③④	B	A	
		小テスト等を活用し週末の学習を促すとともに、基礎学力を1年のうちに養わせ、成績不振者の早期発見ときめ細かな指導に努める。 ①④⑤	A		
		個人面談等を利用し、生徒理解に努めるとともに、学習について適切な指導や援助を行う。 ①④	A		
	進路意識を高め、進路の方向性の明確化を図る。	文理及び学科選択について、HR で情報を提供し、面談を通して生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。 ①②	A	A	
		道徳や探究活動・大学キャンパスツアー等を通して、 長期的な展望に立ったより高い進路の意識付けを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。 ①③⑥⑩	A		
		進路講演会や卒業生による講演等を実施し、より現実的に自分の進路について考える契機をつくる。 ①	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
第2学年	規律ある生活習慣の維持に努める。実践意識を高め、中心学年として学校全体を牽引する役割を担う。	挨拶や服装の指導を行うとともに、早い時間の登校を徹底し、規則正しい生活を促す。また、校舎内外の清掃に努め、健康的で学習に集中できる生活習慣を確立させる。 ④⑥⑧	B	B	・まだ、基本的な生活習慣と学習習慣が身についていない生徒への細やかな対応。 ・ICT等を活用して学力の確認を積み重ねてはいるものの、その結果の分析、そしてその結果の教職員側の共有。 ・2年次に「第一志望宣言」を行わせ、それに従って生徒が進路実現を達成していく上での細やかな進路指導計画と生徒の人間的成長につながる個別面談や保護者との連携。
		学校の中心的存在となることを目指し、スタディツアーや尚志祭等の学校行事に積極的に取り組んでいくことで、規範意識と社会性の高揚を図りながら同時に人間的成長を促す。 ④⑦	A		
		道徳プラスを実施し、討議型・協働型の活動をとおして道徳的判断力・実践意欲を身に付ける。教科横断型の探究活動等を通して、他を思いやることのできる豊かな人間性を涵養していく。 ⑥⑩⑪	B		
	授業を軸とした学習サイクルを継続し、能動的に学ぶ姿勢を身につける。 進路目標を明確化し、自己実現の達成を目指す。	授業の予習・復習を中心とした学習習慣を確立できるよう、個人面談をとおして家庭学習状況を確認し、生徒の個に応じた自己管理能力の育成を支援する。業務の効率化を図るためにICT等を積極的に活用し、限られた時間を有効に活用し、生徒たちとの良好な人間関係の構築を図る。 ②③⑤⑮	A	A	
		成績不振者の早期発見に努め、放課後課外を実施する。また、ICTを積極的に活用しながら個に対応した学習支援をしていく。 ④⑤	A		
		適切な進路情報提供と、探Q等における学究的活動や進路活動をとおして、自らの進路を主体的に選択しようとする姿勢を育む。 ①⑨⑩	A		
	進路目標を明確化し、自己実現の達成を目指す。	保護者との連絡・個別面談等を密に行い、生徒との信頼関係を築くとともに、適切な進路目標の設定を促す。キャリア・パスポートを活用し、自己実現の達成を目指した活動計画作成と実践を促していく。 ④⑤⑦	B	B	
第3学年	規律ある生活習慣の維持	朝の自学自習時間を大切にし、規則正しい生活を継続させる。清掃活動や委員会活動等において後輩の範となる生活態度を示せるよう指導・支援していく。 ⑤	B	A	・本校の教育基盤の一つである探Q活動で培った姿勢・資質を三年次における進路選択に活かしていくための継続性のある指導体制の構築に向け、あらゆる垣根を超えた生徒支援を可能にする組織作りが必要である。
		尚志祭等の学校行事においてリーダーシップを発揮し、良き伝統を後輩へ引き継がせていく。学校行事への積極的な参加を通して知徳体のバランスの取れた人間的成長を促す。 ⑦	A		
	授業を軸とした能動的学習習慣の定着化	学校授業を基盤としつつも、課外授業や外部模試等を活用しながら、進路を踏まえた自己の興味関心に基づく主体的な学習へと発展させていけるよう学習の支援をする。 ④	A	B	
		ICTを有効利用した対話的な学びを促進する授業を実践し、教科学習力のさらなる強化を目指す。教科横断的な学習を展開し、常に問題解決意欲のある国際社会リーダーとしての資質を身に着けさせる。 ③⑨	B		
	進路実現の達成を目指す	キャリア・パスポートを活用し、LHR等においてこれまでの進路活動を振り返りながら、自らの進路を主体的に実現しようとする姿勢を育む。 ②	B	B	
		個別面談を通し担任との良好な人間関係を築くと共に、進路指導資源を活用し、適切な進路情報を得ることで進路実現を目指していけるよう支援する。ICTを有効に活用することで、学年を跨いで共有できる継続性のある組織的な進路指導体制を構築する。 ①	A		

※ 評価規準： A 十分に目標を達成できた。 B ほぼ目標通りできた。 C 目標に届かず、成果が上がっていない。